



東海物語

先文堂
三冊
番

二篇

巻上

1306
2



13 特
1306
2

末編を二編の叙

予此双編を編むに先づ其の宗旨を定む

と固く無用として紙墨を費はさず

好む然も幸甚家推女を以て善を導き悪を御す

孝子慈父節婦の行を辨を以て世教の一助とす

めり然るに淫婦子孫を正し人知授事好む唯一人の

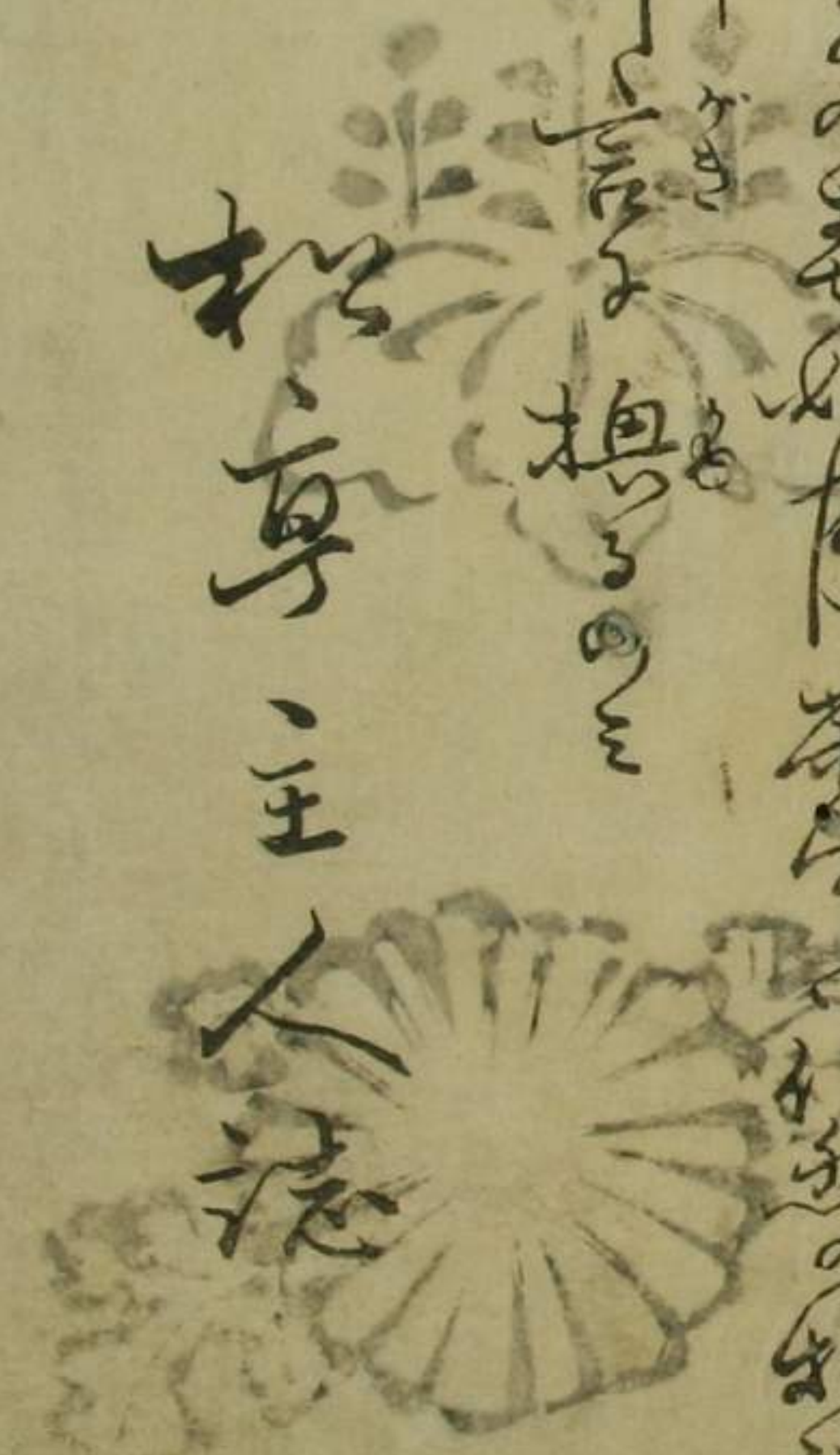
心はわが同胞の事を思ふ事なきに似たり
 その情をいとも可なりと云ふは誠なる事なり
 且貞節の事と云ふは遠くは父の遺命
 を守る事と云ふは近きは母の遺教
 時に海を渡りて我が國に來りて
 此の事なきに似たり

心はわが同胞の事を思ふ事なきに似たり

八十一 老翁の心

千の天保子の心をわが心
 此の心をわが心と云ふは

松島主人誌







閑情未摘花第二編卷之上

江戸 松亭金水編次



第七回

山谷通の馬の蹄蹴むげーあり泥町と俾るふーる境の
 下いと些少ある格好小用公まびーき軒並ひわびくくと東屋の明
 ゆく室おねごと中坊小雪踏ふ足するのきく室まきと駿ハ一折
 うらと来かる両個 一清さんとておめいへまはる ぼろ
 屋とゆゑをぶのらうがお茶の元つらと女中のおん



夫
中
下
乃
乃
乃



鶴
千
乃

半
恨
紅
園
善
書
禮
法



閑情末摘花第二

江戸 松亭金水編次

第九回

何んぞと云ふは甘美のものを捨てて今目かまらうと事おぼせ。
 北里の禿が庄屋の「目あや」と留めよう人近き北廓の
 舞書のうらみ。さうして〜書きたれどあの青樓はたふ人の各
 合意のりるべし。故人京傳子が青樓の書置の世間を錦の裡と
 弾らさうとておぼせぬ。かの目あやのまゝとらわさうとて目か



正月の桂から仕舞る祝儀ののののとき此のころ
ついで宣けほど成丈自れも都合よく見せよう
正月をまゝと二十兩の入まゝから大妻さま及夫さまと勤ら舞
から内証も金を貸さるゝとせよ
些も借まへんハ米多借わぬ宣のサト支個よりと睡ますと雨は頻り
部屋もと寂寥と下下座を小内唄女が浴ひのこ味縁出
閑てりぬ淋一當下廊下をさくと急ぐ足音真の音まで清
務がさまの障子と煙と女のあそびは花さんアハ米さんか返道も

のりませんタトのりよ清花ハ火鉢の側の本を見て居らう
お主人ハ泥町の亀屋の内をさんざら〜まア左様でござい
また松も米さんお此お働一や〜のりよがたそ〜ま〜ま
幸お茶さんちよ〜左様やとお号のさ〜アトまで上の間の
屏風を明け如此のよう〜米ハ左様ハ何の用〜仕方〜
呉るト〜言らう〜蒲巻の上へ起る〜お〜ハ〜
居る〜且那よく入〜お〜各婿今日ハ米さんが返道
おの〜



閑情末稿花第二編卷之下

江戸

松亭金水筆

第十二回

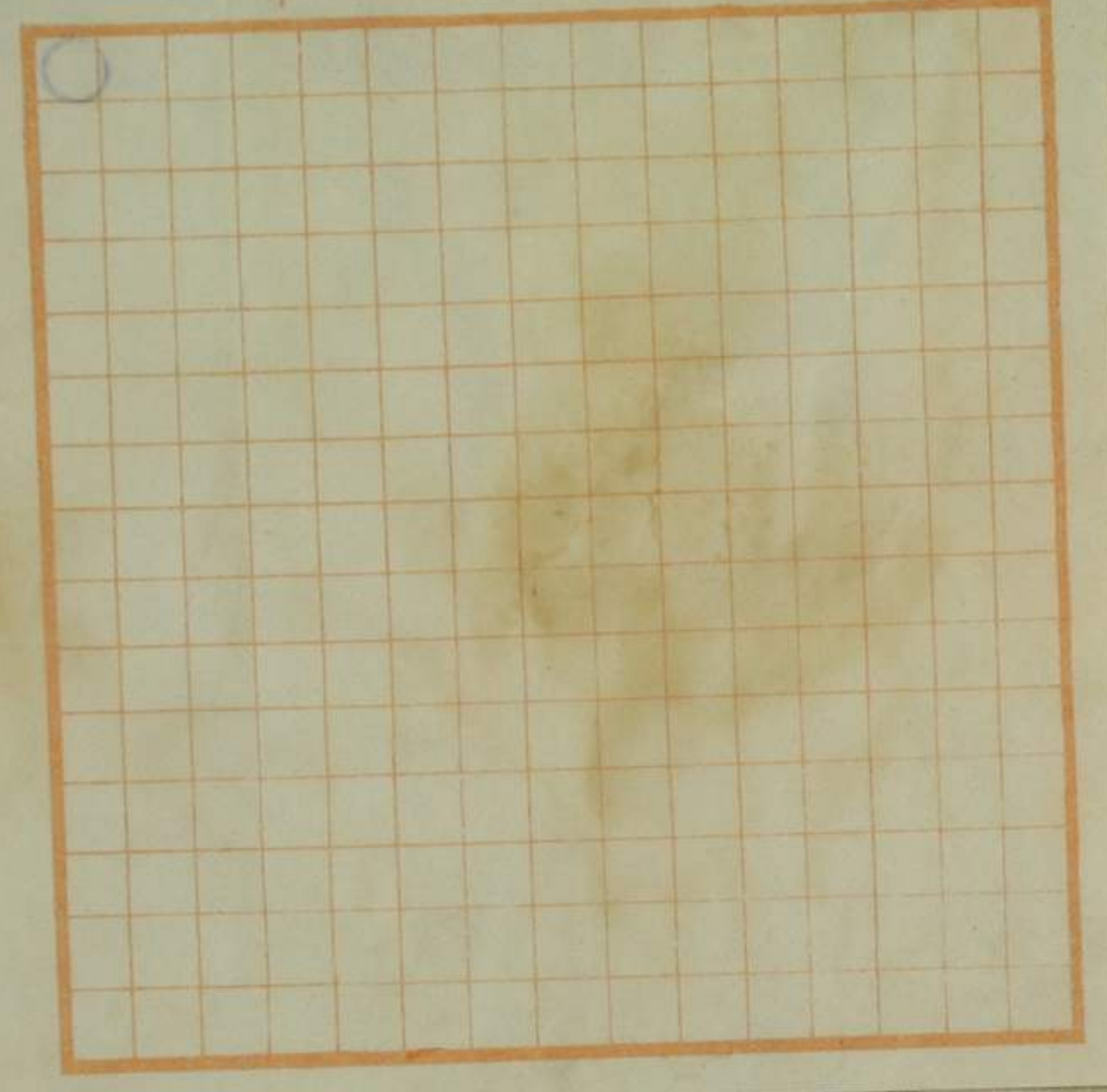
貧富の自ら天命の然るを以て所と以て。名角善人の貧
 富多し。悪人の富貴多し。在るは理合あるべし。天
 道さぬも國を以て言て。天を怨む不當。こゝろを身の
 生きたるべき大なる善金。湯水の如く。小善の善を期
 して。貧乏するをわらうと。万の己を顧みて。いよく善を



ア 去(あ)りせ 世(よ)さん(さん)は(は)は(は)も(も)宜(よろ)む(む)か(か)ま(ま)ら(ら)う(う) 法(は)が(が)有(あ)り(り)ま(ま)す(す)。 何(なに)れ(れ)ら(ら)う(う)
大(お)お(お)宜(よろ)む(む)ら(ら)う(う)な(な)ら(ら)う(う)ま(ま)ら(ら) 母(はは)が(が)お(お)ま(ま)さん(さん)お(お)帰(か)り(り)ま(ま)す(す)久(ひさ)し(し)刻(とき)に(に)美(うつく)し
味(あじ)の(の)有(あ)り(り)ま(ま)す(す) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)
井(い)美(み)く(く)給(たま)り(り)ま(ま)す(す) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)
産(う)ま(ま)れ(れ)て(て)お(お)ま(ま)さん(さん)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り)
お(お)ま(ま)さん(さん)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り)
け(け)こ(こ)下(した)母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り)
冷(ひや)い(い)ら(ら)う(う)な(な)ら(ら)う(う) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り)

お(お)止(と)ま(ま)り(り)ま(ま)す(す) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り)
ち(ち)や(や)ど(ど)お(お)ま(ま)さん(さん)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り)
配(は)り(り)お(お)ま(ま)さん(さん)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り)
取(と)り(り)ま(ま)す(す) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り)
ま(ま)ら(ら) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り)
所(ところ)々(々)お(お)ま(ま)さん(さん)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り)
お(お)ま(ま)さん(さん)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り)
お(お)ま(ま)さん(さん)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り) 母(はは)が(が)お(お)腹(はら)で(で)お(お)給(たま)り(り)

年 月



末摘花二編卷之下終

け
人を知るハ猶身ノ衆お祖師さぬやお釈迦さぬ。この世ハ
身ノ不幸なる人並に死す。まゝまゝ未世ハ
揚花のぬゝあめの指を組合せり。昔ハ伏深てまゝ
け

人を恨むは猶も身の深お祖師さぬやお釈迦さぬ。この世の
身の不幸なる人並にさる死をせしむ。まゝなる未世に
あつて。可成り思ふに。お祖師の言ふ事。かゝる
揚枝の如く。一木の指を組合せり。皆く伏深く。一
けり

末摘花二編卷之下終

[Blank paper insert]

